

リンゴのヒメボクトウは対策を組み合わせせて防除する

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

部門名 果樹ーリンゴー病害虫防除

担当者 星 博綱・佐々木正剛・川口悦史

I 新技術の解説

1 要旨

リンゴの難防除害虫であるヒメボクトウは、成虫の交尾を阻害する性フェロモン剤「ボクトウコンーH」(農薬登録申請中、平成 27 年 2 月 13 日現在)、ふ化幼虫の食入を阻害するジアミド系殺虫剤「フェニックスフロアブル」、幼虫の密度を低下させる昆虫病原性線虫剤「バイオセーフ」を体系的に組み合わせせて処理することにより効果的に防除することができる。

具体的な処理体系は以下のとおり。

- (1) 成虫発生前の6月中旬にボクトウコンーHを目通りの高さに 10a 当たり 100 本設置する(図1,4)。
- (2) 成虫発生初期の7月上旬にフェニックスフロアブル 4,000 倍を散布する(図2,4)。
- (3) 春期(5月中旬～下旬)と秋期(9月中旬～10 月上旬)に蓄圧式散布器を用いてバイオセーフ 2,500 万頭/25Lの薬液を樹幹注入する(図3,4)。
- (4) 以上の対策を体系的に組み合わせせて処理することにより、ヒメボクトウを効果的に防除することができる(図5)。

2 期待される効果

- (1) 難防除害虫であるヒメボクトウの被害を効果的に低減することができる。
- (2) ナシにも適用できる技術である。

3 適用範囲

県内のリンゴ及びナシの被害発生園

4 普及上の留意点

- (1) 早期に被害を発見して対策を実施する。
- (2) 被害発生地域では地域が一体となって対策を実施する。
- (3) 被害部の切除等の耕種的防除を併せて実施する。

Ⅱ 具体的データ等



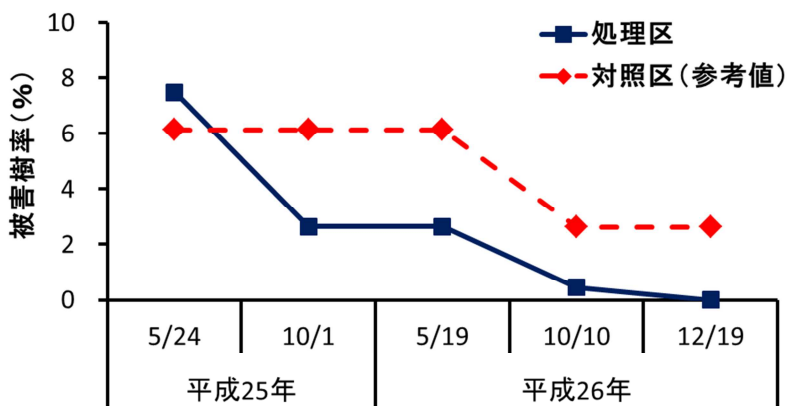
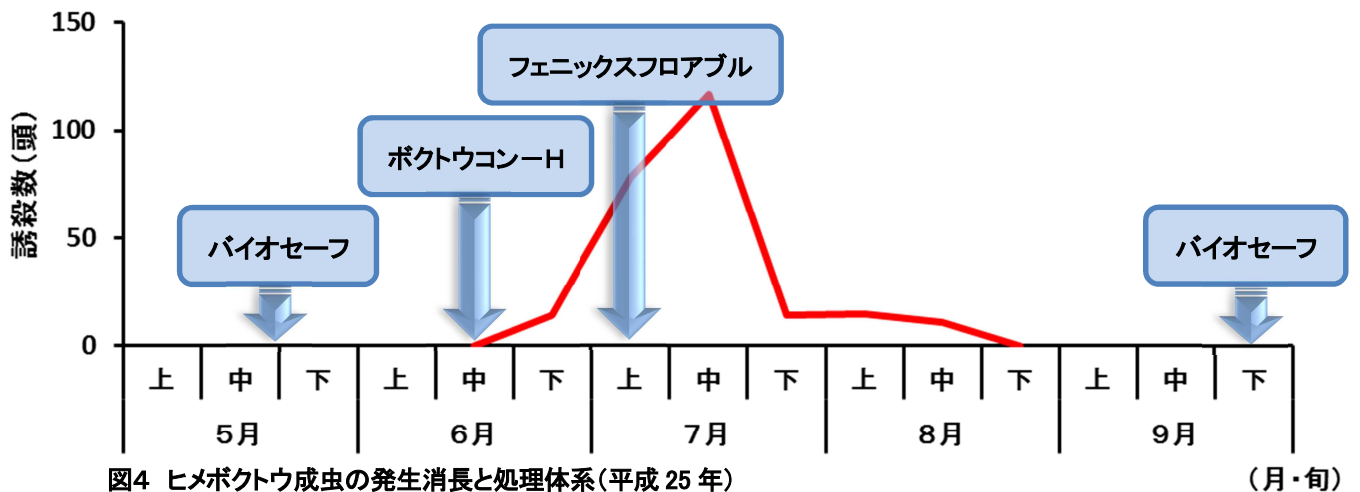
図1 ポクトウコンーHの設置



図2 フェニックスフロアブルの散布



図3 バイオセーフの樹幹注入



注1)福島市内の現地リンゴ園(約 150a、227 樹)を処理区とし、同地区に慣行防除の対照区(約 65a、114 樹)を設置した。

注2)被害樹率(%)=(被害樹数/植栽本数)×100

注3)平成 26 年 12 月 19 日に処理区の被害部 1 カ所を切除した。

注4)平成 26 年は園主により対照区も処理区と同様の対策が実施されたため参考値とする。

Ⅲ その他

1 執筆者

星 博綱

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 25 年度～26 年度
- (2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化(新資材・肥料の効率的利用法)

3 主な参考文献・資料

- (1) 東北農業研究 第 65 号 115-116 (2012)